

Title	宮崎友愛先生略歴
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	1971
Jtitle	哲學 No.58 (1971. 12) ,p.i- iv
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000058-0003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

宮崎友愛先生略歴

先生は、昭和5年より昭和46年迄の40年間にわたって慶應義塾大学文学部に奉職され、特に専攻の倫理学の分野における研究と後進の指導をはじめ、慶應義塾の研究と教育に対して多大の貢献を果たされました。また、その間ずっと三田哲学会会員及び会長として、当学会発展のために尽力されたのであります。なお、昭和46年4月には長年の功勞により慶應義塾大学文学部名誉教授に推挙されました。

I. 経 歴

- 1923年（大正12年4月） 慶應義塾大学文学部哲学科入学。
- 1930年（昭和5年3月） 同大学文学部哲学科（倫理学・社会学を主とするもの）卒業。
- 1930年（昭和5年4月） 慶應義塾大学文学部助手に就任。
- 1932年（昭和7年4月） 同大学予科教員に任ぜられ、論理学、倫理学、哲学を担当する。
- 1939年（昭和14年4月） 日吉寄宿舍々監を兼任。
- 1943年（昭和18年7月） 日吉寄宿舍主任を兼任。
- 1949年（昭和24年4月） 慶應義塾大学文学部助教授に任ぜられ、同大学（三田）学生部主事および同大学予科教員を兼任する。
- 1950年（昭和25年6月） 同大学文学部教授に昇任。学生部主事を辞任。
- 1959年（昭和34年7月） 慶應義塾派遣留学生として渡欧し、主として独逸学派の価値理論に関する研究に従事する。
- 1960年（昭和35年6月） 欧州留学より帰朝。
- 1961年（昭和36年4月） 慶應義塾大学大学院文学研究科委員を兼任。

宮崎友愛先生略歴

- 1963年（昭和38年11月） 慶應義塾評議員に選出される。
- 1964年（昭和39年11月） 同評議員に再び選出される。
- 1965年（昭和40年10月） 慶應義塾大学文学部長に任ぜられ、同大学大学院文学研究科委員長を兼任する。
- 1967年（昭和42年9月） 同大学文学部長および同大学大学院文学研究科委員長を辞任。
- 1971年（昭和46年3月） 慶應義塾停年退職。
- 1971年（昭和46年4月） 慶應義塾大学文学部名誉教授に推挙される。

II. 三田哲学会に関する活動

- 1927年（昭和2年） 慶應義塾大学文学部哲学科の学生として、三田哲学会の発会準備に従事する。
- 1930年（昭和5年） 赤坂の料亭「幸楽」で開かれた三田哲学会例会において、卒業論文の発表を行なう。
- 1930年（昭和5～6年） 川合貞一教授還歴記念論文集の発刊に際し、校正その他の事務を担当し、苦勞する。
- 1940年（昭和15年） 三田哲学会日吉支部の主催で約20名の学生を週一回づつ碑文谷の自宅に集め、哲学書の講読等指導を行なう。
- 1969年（昭和44年4月） 三田哲学会会長に就任。
- 1971年（昭和46年3月） 同学会会長を辞任。

III. その他の学会等諸活動

- 1958年（昭和33年6月） 日本道德教育学会常任理事となり、現在に至る。
- 1960年（昭和35年10月） 日本倫理学会評議員となり、現在に至る。
- 1968年（昭和43年6月）—1970年（昭和45年10月） 文部省高等学校教育課程の改善に関する調査研究委員を依嘱される。

1970年（昭和45年3月） 文部省学術審議会専門委員を依頼され、現在に至る。

IV. 著 書・編 書

1937年（昭和12年4月） 「福沢文選」，（富田正文・宮崎友愛共編），義塾出版局発行，発売所岩波書店。

1948年（昭和23年） 「倫理学」，慶應通信株式会社。

1952年（昭和27年） 「西洋倫理学史（古代・中世）」，慶應通信株式会社。

1959年（昭和34年） 「倫理学」（古川哲史と共著），有斐閣。

V. 論文の主なるもの

1932年（昭和7年） 「純粹意志について」，三田哲学会編「哲学」。

1936年（昭和11年） 「シェーラーの哲学的人間学管見」，三田哲学会編「哲学」。

1938年（昭和13年） 「実質的価値倫理学における価値客観主義の限界」，三田哲学会編「哲学」。

1939年（昭和14年） 「現代の存在論」，日吉学会編「日吉論叢」第1巻第1号

1939年（昭和14年） 「C. Bouglé: Humanisme, sociologie, philosophie 1938.」，雑誌「改造」第22巻13号。

1939年（昭和14年） 「高橋里美著『歴史と弁証法』」，三田史学会編「史学」第18巻第1号。

1940年（昭和15年） 「アリストテレスの善の概念について」，三田哲学会編「哲学」

1940年（昭和15年） 「現代に於ける知性論の展開」，雑誌「文化評論」創刊号。

1940年（昭和15年） 「オカンツォーク著，三浦岱栄訳『医学の倫理』」，

宮崎友愛先生略歴

雑誌「三田評論」516号.

1952年（昭和27年） 「ブレンターノの倫理思想」, 三田哲学会編「哲学」.

1956年（昭和31年） 「習慣の意義」, 三田哲学会編「哲学」.

1957年（昭和32年） 「シェーラーの実質的価値倫理学」, エルリンハーゲン編「現代生活倫理講座」第1巻（『倫理の本質』）.

1958年（昭和33年） 「エロスと道徳的悪について」, 三田哲学会編「哲学」.

1959年（昭和34年） 「習慣の意義と道徳教育」, 日本道徳教育学会編「道徳と教育」第1巻第3号.

1960年（昭和35年） 「ヴィーンの六ヶ月」, 雑誌「三色旗」第150号

1963年（昭和38年） 「独逸の道徳教育」, 日本道徳教育学会編「道徳と教育」第3巻第8号.

1963年（昭和38年） 「Improvisation」, 雑誌「三色旗」第180号.

1963年（昭和38年） 「現代人の幸福について」, 日本道徳教育学会編「道徳と教育」第3巻第11号～12号.

1965年（昭和40年） 「道徳体験の根源的構造」, 三田哲学会編「哲学」.